

フランス語の認知動詞 *comprendre* における可能標識の共起をめぐって

— 無標識可能と有標識可能に関する一考察 —

吉武大輝 (東京外国語大学大学院)

フランス語の動詞 *comprendre* は「理解」を意味する認知動詞であり、Vendler (1957) によって称されるところの到達動詞 (verb of achievement) に分類される。本研究では、この動詞 *comprendre* に *pouvoir* や *arriver à inf.* といった可能標識が共起しやすい条件 (有標識可能表現) ならびに可能標識が共起しにくい条件 (無標識可能表現) を明らかにする。

無標識可能表現はフランス語学以外の個別言語学においても度々議論される現象であり、フランス語学では Le Querler (1989) によって知覚動詞 *voir* における法動詞 *pouvoir* の共起が分析された。Le Querler (1989 : 75) および Vendler (1957 : 148) によれば、意志的な動作を表す動詞では有標と無標の間で意味的に大きな隔たりができるのに対して、知覚や認知といった非意志的な動作を表す動詞では一定の条件下で等価性 (équivalence) が保たれることが多いという。ただし、知覚動詞と認知動詞はしばしば分類上混同されることがあるものの、Lemaire (1999 : 14) によれば、認知は知覚を内包するものであり知覚よりも高次の能力であるという。動詞 *comprendre* が意味する「理解」という行為は、知覚動詞が表すものとは異なり、一般的に「努力」を伴うものであるため、困難性 (difficulté) の意味合いを表出する法動詞 *pouvoir* (cf. Boissel & Devarrieux 1989 : 61) が共起しやすいように思われる。しかしながら、実際の使用では、「 Ils ne comprennent pas, ils ne peuvent pas comprendre ! » (Roger Martin du Gard (1992) *LE CAHIER GRIS*) のように、知覚動詞と似たような振る舞いが見受けられる。

本研究では、FRANTEXT (フランス語書き言葉データベース) を一次文献として使用し、現代フランス語 (19世紀-21世紀) における有標識の動詞 *comprendre* と無標識の動詞 *comprendre* の文脈的差異を観察した。その結果として、動詞 *comprendre* に可能標識が共起する頻度は約 5%であり、可能標識が共起しない頻度はおよそ 95%であった。

第一に、有標識可能表現では法動詞 *pouvoir* が約 70%を占めた。法動詞 *pouvoir* が共起する文脈として、困難性が言語表現によって明示されている文脈・修辞疑問文・怒気が出される文脈・可能行為 (可能標識の補語) が画定される文脈・可能主体 (動詞 *comprendre* の主語) が画定される文脈が多いということが明らかになった。このことから、動詞 *comprendre* に共起する法動詞 *pouvoir* の用法の多くは、van der Auwera & Plungian (1998) によって称されるところの意味効果 (effet de sens) を発するポストモーダル用法 (emplois postmodaux) であると言える。

第二に、無標識可能表現では、à l'instant や tout de suite といった瞬時性を表す副詞的表現が共起しやすいことがわかった。

時制に関しては、無標識可能表現では現在時制と過去時制の大きな頻度差は見られなかったものの、法動詞 *pouvoir* による有標識可能表現では現在時制に頻度の偏りが見られた。

要旨内の参考文献

- Boissel, Pierre et al. (1989) Paramètres énonciatifs et interprétations de *pouvoir*, *Langue française*, vol.84, pp.24-69, Armand Colin.
- Le Querler, Nicole (1989) Quand voir, c'est pouvoir voir, *Langue française*, vol.84, pp.70-82, Armand Colin.
- Lemaire, Patrick (1999) *Psychologie Cognitive*, De Boeck.
- van der Auwera, Johan & Plungian, Vladimir (1998) Modality's semantic map, *Linguistic Typology*, vol.2, issue 1, pp.79-124, Mouton de Gruyter.
- Vendler, Zeno (1957) Verbs and Times, *The Philosophical Review*, vol.66, no.2, pp.143-160, Duke University Press.